

## 第15回日本再生医療学会総会参加報告

山本 美佐\*

2016年3月17日から3月19日にかけて大阪国際会議場において、第15回日本再生医療学会総会が開催された。今回の学会のテーマは「知のシンフォニー～再生医療による難病克服を目指して～」であり、大阪大学大学院医学系研究科脳神経感覚器外科学教授の西田幸二先生が会長を務められた。2016年の今年はいPS細胞発表から10年の記念すべき年であり、また昨年には再生医療推進法、再生医療等安全性確保法、医薬品医療機器等法が成立した経緯からも、近年の再生医療に関わる臨床家や研究者は、まさに英知を結集し国を挙げて再生医療の実現化を日夜目指しており、国民の大きな期待が寄せられている節目の年と位置づけられる。そのような時代背景の中、山口大学大学院医学系研究科保健学専攻では、臨床検査技師の新たな活躍の場としての再生医療分野にいち早く着目し、2015年4月に同大学院保健学専攻生体情報検査学領域において「再生医療・細胞療法を担う高度な医療専門職業人(臨床培養士)養成課程」を設置した。今回の学会総会にはその養成課程1期生にあたる修士1年生7名を引率し、養成課程担当教員4名とともに参加した。

日本再生医療学会総会の参加者は確実に年々増えており、中でも特に若い臨床家や研究者の参加が増えている印象がある。今年の会期は3日間で、各日とも第1～第12会場、ポスター展示会場、企業ブースが設置されており、その内容は、会長講演、理事長講演(大阪大学 澤 芳樹先生)、特別講演2題、教育講演3題、基調講演3題、27

のシンポジウムが開催され、どのセッションの内容もハイレベルかつ最先端の内容であり、同日同時刻に開催されるどのセッションに参加しようか目移りするほどであった。

会議内容は前述した学会テーマを基に、産・官・学・患の連携による知の結集によって再生医療を普遍的治療に発展させ、難病克服を目指すことを軸に幅広いテーマが取り上げられていた。

ニュースでも頻繁に取り上げられている「心筋再生医療開発の最前線」や「間葉系細胞を利用した再生医療」などの最新の再生医療や、幹細胞やリプログラミング研究の新展開などの最新の研究をテーマとしたシンポジウムが開催された。さらにはiPS細胞の安全な再生医療への応用を目指した材料・品質の向上等のシンポジウムも開催され、とてもエキサイティングな内容であった。

このようなバラエティに富むテーマの中、臨床検査技師の育成の一端を担う教員として注目したのが、最終日に実施された「再生医療における人材育成の展望」をテーマとしたシンポジウムであった。再生医療新法によって再生医療を推進する法的枠組みは整備されたが、実際の再生医療を支援する人材は不足している。大～中規模病院を中心に再生医療を実施する医療施設が急増している中、実際に再生医療を実施するにあたり、専門的知識に基づいて細胞の調製・培養を行う人材の育成が急務である。東京医科歯科大学、大阪大学、京都大学では文部科学省と国立研究開発法人日本医療研究開発機構(AMED)の支援によって「再生

\*山口大学大学院医学系研究科保健学専攻 yamamoms@yamaguchi-u.ac.jp

医療支援人材育成コンソーシアム」事業を実施している。この事業では、社会人と大学院生 30 余名について、カリキュラムの共通化により、標準化された知識と技術を備えた人材育成を実施しており、将来の再生医療に携わる人材育成のためのモデル事業と言えよう。また、日本再生医療学会では 2014 年に「臨床培養士制度」を発足した。この制度は医療倫理を理解し、再生医療等の共通基盤となる細胞/組織、再生医療等および再生医療等に関する法的規制に関する知識を有するとともに、再生医療等の実践を支える基本的技術に習熟した細胞培養技術者を養成することにより、安全で有効な再生医療の実践を促進し、その発展をもって広く国民の福祉に貢献することを目的としている。これらの人材育成制度の展望や課題について、すでに再生医療を実施している大学および企業の専門家による意見交換は、再生医療に携わる技術と知識を持つ、臨床検査技師の育成のための貴重なアドバイスとなった。

最後に、当大学大学院医学系研究科保健学専攻に設置された臨床培養士養成課程の概要を簡単にご紹介したい。当大学養成課程では、再生医療の概念、関係法規、細胞培養技術や再生医療を実践し、それらの品質を維持するための施設や試薬等の管理・検査方法・コンタミネーション予防策やその解釈について、各専門分野の教員により講義・演習を実施している。また、基本的な細胞培養技術から、実際に応用が利く再生医療材料の作製手順や評価法まで、詳細な演習も実施し、養成課程修了後の即戦力として再生医療分野に貢献できる人材育成を目指している。さらには、来年度より博士後期課程にも養成課程が設置されることが決定し、技術貢献のみならず、再生医療研究に取り組む人材の育成も担うことになった。近い将来、再生医療や細胞療法部門が臨床検査部の新たな領域として認識されるべく、当大学教員一同、一丸となって取り組んでいる。

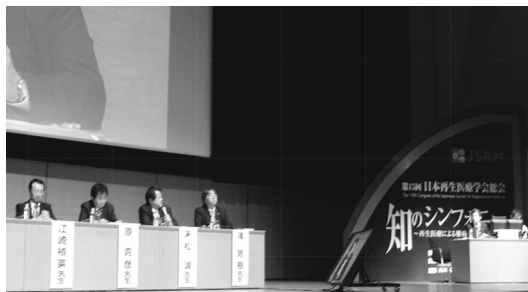


写真1 産・官・学連携で行われた第1会場シンポジウムの一場面



写真2 懇親会場で学会長の西田先生を囲み、参加者一同で記念撮影



写真3 企業ブースで開発製品や業務内容の説明を受ける当大学養成課程の学生たち  
どのような企業がどのような再生医療製品を開発しているかを知る良い機会となった。